

学校における猛暑災害対策について

教育部 教育総務課・学校教育課

1 背景

近年の急激な気候変動に伴い高温化が進み、昨年(令和5年)の6月から9月までの市内の気象状況については、最高気温が35度以上となる「猛暑日」はなかったものの、最高気温が30度以上の「真夏日」は、前年の倍以上となる81日であった。また、熱中症の危険性が極めて高い気象状況が予測される際に発表される「熱中症警戒アラート」は、前年の4倍以上となる29回発表されている。

このことから学校現場において、この猛暑を災害と捉え、熱中症弱者とされる子どもへの更なる対策が急務となっている。

2 学校において実施する猛暑災害対策

(1) 施設面の対策

ア 実施理由

本市では猛暑を災害として捉え、学校生活において、児童生徒の安全を確保するため、小中学校の普通教室や特別教室の空調を令和元年度に迅速に整備したことにより、施設面における校舎内の対策は既に図られている。

しかし、学校内の体育館やグラウンドにおいては、夏季期間はもとよりその前後の期間においても、児童生徒の安全面の観点からその利用が制限されてしまう現状があり、猛暑であっても児童・生徒の健康を守ったうえで、校舎以外の学校施設の最大限の利用を図るための取組を進める。

イ 具体的な取組

取組	対象	内容・進捗状況
体育館への空調設備設置	全中学校9校	設計業務を行っており、設計完了後に工事着手
	全小学校13校	設計業務の発注に着手した
スポットクーラーの設置	全小中学校	今夏の対策として、全小中学校22校の体育館へ暫定的にスポットクーラーを設置(レンタル) 5月21日から運用
ミストシャワーの設置	全小中学校	児童生徒の屋外での活動の熱中症対策としてグラウンド周辺へミストシャワーを設置 順次設置作業を行っており、5月末までに完了

(2) ソフト面の対策

ア 実施理由

児童生徒の健康を守るためには、学校生活における施設面での猛暑災害対策の実施のほか、学校生活時や登下校時、週休日等でのソフト面における対策も重要となってくるため、さまざまな取組を進めるよう計画している。

イ 具体的な取組

(ア) 小学生登下校時熱中症対策

取組	内容・進捗状況
保冷剤付ランドセル背あてパット	登下校時の熱中症対策として、 小学校1年生から6年生の全児童に、 5月末までに配布
クールタオル	
保冷剤用冷凍庫の設置	下校時の熱中症対策として、 各小学校に、5月末までに設置

(イ) 焼津市立小中学校熱中症対策ガイドライン(案)の作成

- ・暑さ指数(WBGT)と熱中症予防の体制整備や熱中症の予防策について整理し、学校における熱中症対策 実践例などを掲載し、各学校での対策に生かす。
- ・ガイドラインを参考に、各学校での取組を考え、お便り等で保護者・地域にも周知し、学校・保護者・地域一体となって子どもを熱中症から守る。

(ウ) 熱中症対策の再周知

- ・ネッククーラーなどによる体の冷却
- ・水筒の持参、水分の補給(教師の声掛け)
- ・熱中症警戒アラート、暑さ指数による活動の判断

(エ) 学校における具体的対策 ※詳細は別紙資料1-②

- ・登下校時の対策…教科書等荷物の軽減など
- ・学校生活上の対策…空調設備の適切な利用など
- ・体育大会(運動会)での対策…児童生徒席にテントなどの日よけの設置など
- ・部活動時の対策…部活動日誌等に健康観察項目、気温等の記入欄を入れるなど
- ・熱中症予防への意識の高揚…児童生徒に熱中症予防の保健教育を実施など
- ・その他の取組…長い休み時間には水筒を持参し、定期で給水することを推奨など
- ・教育課程の検討…体育大会(運動会)の実施時期の検討など

3 今後に向けて

気象庁によると、今年4月の全国の平均気温は、平年を2℃余り上回り、統計を取り始めてからの120年余りの中で最も高くなっており、静岡地方気象台発行の静岡県気象旬報でも、平均気温はかなり高く、上旬は平年を2.4℃、中旬は2.2℃、下旬は2.6℃上回っている。

また、気象庁の暖候期予報(6月から8月)では、東海地方の夏の天候の見通しとして、「夏の気温は暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い」とされており、今後も気温が平年を上回ると予想される。

今年度できる限りの対策を検討し、取組を進めているところであり、今後、猛暑の状況を検証し、更なる対策の必要性について検討していく。